

受領No.1523

若手医学研究者の立場から、より良い医療を目指すために 「医学研究・研究者の評価軸」を再考する



代表研究者	杉山 雄大	国立国際医療研究センター 研究所糖尿病情報センター 医療政策研究室長
共同研究者	箕浦 明	昭和大学 医学部衛生学公衆衛生学講座 助教
	桑原 恵介	帝京大学大学院 公衆衛生学研究科 講師
	近藤 誠	大阪市立大学大学院 医学研究科 器官構築形態学 教授
	福島 紘子	筑波大学医学医療系 小児科 講師

Reconsideration of evaluation criteria for medical research and researchers aiming for better medical care from the standpoint of young medical researchers

Representative	Takehiro SUGIYAMA, Diabetes and Metabolism Information Center, Research Institute, National Center for Global Health and Medicine, Chief, Division of Health Services Research
Collaborator	Akira MINOURA, Department of Hygiene, Public Health and Preventive Medicine, Showa University School of Medicine, Assistant Professor
	Keisuke KUWAHARA, Teikyo University Graduate School of Public Health, Senior Assistant Professor
	Makoto KONDO, Department of Anatomy and Cell Biology, Graduate School of Medicine, Osaka City University, Professor
	Hiroko FUKUSHIMA, Department of Child Health, Faculty of Medicine, University of Tsukuba, Associate Professor (Lecturer)

研究概要

医学研究の評価は、多くの場合掲載雑誌のインパクトファクター（IF）や被引用論文数などの量的指標を用いて行われる。研究者も、研究費の獲得状況、論文数や論文の量的指標を用いて評価されることが多く、研究者はそれらの評価軸を念頭においた上で研究活動やキャリア選択を行っている。一方で、研究の大型化、ビッグデータ構築など分業が今まで以上に重要になり、筆頭論文の被引用以外の形でも社会的なインパクトを多くもたらせるようになった現在、従来の指標では十分な評価が行えていない可能性がある。また、社会医学・公衆衛生の観点からは、今般のCOVID-19対応のような際には、競争的に独創的な研究を行うだけでなく、協力して情報収集体制を築いた上で即時性のある情報発信を行うことが意義深い場合もあり、従来の評価軸がそぐわない場面も多いと考えられる。本研究では、基礎・臨床・社会医学の分野で研究を行う若手医学研究者らの立場から、関係者へのインタビュー調査、研究者へのアンケート調査を行い、現状の評価軸にどのような特徴、課題があるか、将来的にどのような評価方法が考えられるかについて、検討する。